

序 説	大阪中央病院	平田 一郎
I. 大腸腫瘍の分子生物学とは—臨床医が理解するための基本	聖マリアンナ医科大学病院消化器・肝臓内科	山本 博幸
II. 大腸腫瘍におけるエピゲノム異常	千葉大学大学院医学研究院分子腫瘍学	金田 篤志
III. 大腸腫瘍の分子異常と臨床	九州大学病院別府病院外科	三森 功士
IV. 大腸腫瘍の分子異常と病理	岩手医科大学医学部病理診断学講座	菅井 有
V. 大腸癌の浸潤転移と分子生物学	防衛医科大学校外科	上野 秀樹
VI. 遺伝性腫瘍, 家族性腫瘍における分子異常	近畿大学理工学部総合理工学研究科生命科学科理学専攻	田村 和朗
VII. IBD における発癌と分子異常	藤田保健衛生大学医学部消化管内科	田原 智満
VIII. 大腸癌化学療法と分子生物学	慶應義塾大学医学部腫瘍センター	浜本 康夫
IX. 分子生物学からみた大腸腫瘍—課題と将来展望	大阪大学大学院医学系研究科消化器外科	森 正樹
X. 分子生物学的解析のできた症例		
(1) 秋田赤十字病院	秋田赤十字病院消化器病センター消化器内科(消化管)	加藤文一郎
(2) 岩手医科大学	岩手医科大学医学部内科学講座消化器内科消化管分野	川崎 啓祐
(3) 札幌医科大学	札幌医科大学医学部消化器内科学講座	久保 俊之
(4) 国立がん研究センター	国立がん研究センター中央病院内視鏡科	高丸 博之

TOPICS

Utility of magnetic resonance enterography for small bowel endoscopic healing in patients with Crohn's disease	東京医科歯科大学消化器内科	竹中 健人
Chronic enteropathy associated with SLCO2A1 gene [CEAS]—Characterisation of an enteric disorder to be considered in the differential diagnosis of Crohn's disease	慶應義塾大学医学部内視鏡センター	細江 直樹

||||||| 前号のご案内(『INTESTINE』Vol. 22 No. 3) |||||

病態から考え出された IBD 治療の進歩

IBD の病態／世界における IBD 新規薬剤開発動向／新規抗 TNF- α 抗体製剤／IL-12/23 阻害薬／SMAD7 阻害薬／各種 JAK 阻害薬／抗 $\alpha 4 \beta 7$ インテグリン抗体製剤／S1P 受容体アゴニスト／経口 $\alpha 4$ インテグリン阻害薬／ブデソニド経口剤／ブデソニドフォーム／腸内細菌を標的とした治療

INTESTINE ●特集のご案内

Vol. 22 No. 1	IBD 関連大腸腫瘍の診断・治療 update
No. 2	内視鏡治療の偶発症と対策
No. 3	病態から考え出された IBD 治療の進歩
No. 4	炎症性腸疾患の粘膜治療を考える
No. 5	大腸腫瘍の分子生物学
No. 6	大腸内視鏡の話題—機器と挿入法